［募集代理店］ 三井住友信託銀行株式会社

NEWアダージオSTB

変額個人年金保険Ⅱ型2003

＜自由選択コース＞

特別勘定の月次運用レポート
2026年10月末現在

〇市場概況
〇特別勘定の運用状況
〇組入投資信託の運用レポート

変額個人年金保険のリスクと手数料について

●変額個人年金保険は一時払保険料をファンドで運用します。ファンドの主要投資対象である投資信託は、国内外の株式・債券等で運用しており、運用実績が保険金額や資産残高・将来の年金額等の増減につながるため、株価や債券価格の下落、為替の変動により、資産残高、解約払戻金額は払込保険料を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。

●変額個人年金保険は預金等ではなく、預金保険制度ならびに投資者保護基金の対象ではありません。
●受取総額が一時払保険料相当額を下回ること（元本割れリスク）があります。
●保険関係費用：ご契約の新規成立・維持等や死亡・災害死亡の保障等をするための費用です。運用期間中、資産残高に対して年率2.10%の割合で資産残高から毎日控除されます。
●運用関係費用：ファンドの運用にかかる費用です。主にファンドが投資する投資信託の信託報酬で、信託財産に対して最大で年率1.463%（税抜年率1.33%）程度の割合で信託財産から毎日控除されます。運用手法の変更等の理由により将来変更される可能性があります。
●年金管理費：年金支払の管理にかかる費用です。年金の受取期間中、年金額に対して1%の割合で責任準備金から年金受取時に控除されます。
●解約控除：ご契約日および増額日からその日を含めて7年未満の解約、一部解約（特別引出を除く）をした場合にかかります。ご契約日からの経過年数に応じて、解約控除対象額※の7%～1%の割合で解約日の資産残高または一部解約請求額から控除されます。
※解約控除対象額は、解約の場合は一時払保険料相当額、一部解約の場合は一部解約請求額と一時払保険料相当額のうちいずれか小さい方の金額となります。なお、過去に一部解約があった場合はその際の解約控除対象額が一時払保険料相当額から差し引かれます。

＊この商品にかかる費用の合計額は、「運用期間中の費用（「保険関係費用」「運用関係費用」）」と「年金受取期間中の費用（「年金管理費」）」の合計額となります。また、特定のお客さまには「解約控除」がかかります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

［引受保険会社］ オリックス生命保険株式会社

本商品につきましては、新規のご契約のお取り扱いを行っておりません。
ただし、既に本商品をご契約されているお客様につきましては、ご契約後の各種手続のお取り扱いを行っております。

（管）ORI-035

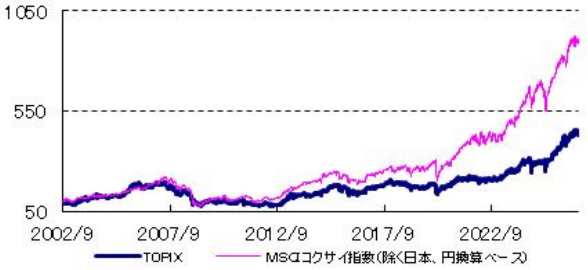
市　　場　　概　　況

	代表的な指標の騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
日本株式	日経平均株価	▲ 5.19%	▲ 1.67%	6.76%	20.76%	105.10%
	TOPIX（東証株価指数）	▲ 3.49%	▲ 0.95%	6.38%	19.01%	75.93%
日本債券	NOMURA－BPI総合	1.76%	0.48%	▲ 0.65%	▲ 5.23%	▲ 9.22%
外国株式	MSCIコクサイ指数（除く日本、円換算ベース）	0.78%	0.33%	5.24%	14.87%	89.25%
外国債券	FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）	1.34%	▲ 2.02%	▲ 2.81%	1.80%	22.57%
外国為替	米ドル対円為替レート（仲値）	0.12%	▲ 1.98%	▲ 1.78%	2.23%	5.37%

日経平均株価(円)の推移



日本と外国の株式市場パフォーマンス推移

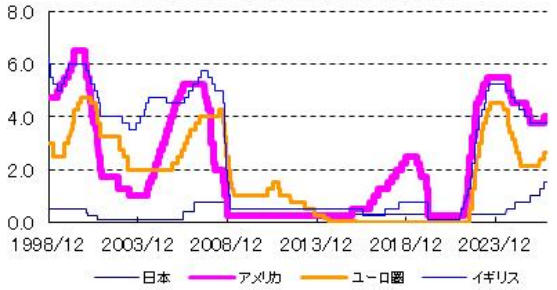


＊上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

日本の国債利回り(%)の推移



先進各国の政策金利(%)の推移



日本と外国の債券市場パフォーマンス推移



＊上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

外国為替レート(円)の推移



全てのデータの出所はBloomberg、野村総合研究所です。NOMURA-BPIとは、日本国内債券市場で発行されている代表的な公社債の流通動向を的確に表す投資収益指数です。当指数は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社によって計算、公表されている、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社の知的財産です。なお、同社は、当指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。MSCIコクサイ指数とは、MSCI Inc.が所有する株価指数で、世界の主要先進国の株式市場の動きを捉える基準として、広く認知されているものです。FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

※運用状況については、組入投資信託の運用レポートをご覧ください。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定（ファンド）グループ

特別勘定と主な投資対象の投資信託

特別勘定	運用資産				主な投資対象の投資信託	運用会社	資産配分（%）		資産合計
	株　式		債　券				投資信託	現預金その他	（百万円）
	日本	外国	日本	外国					
日本株式グロース ファンド ST	●				ジャパン・グロース・ファンドVA1（愛称：得意技VA1）＊	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	97.8%	2.2%	28
日本株式グロース ファンド FIE	●				フィデリティ・日本成長株・ファンドVA5＊	フィデリティ投信株式会社	97.3%	2.7%	2,008
日本株式バリュー ファンド ST	●				キャッシュフロー経営評価オープンVA1（愛称：選球眼VA1）＊	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	97.9%	2.1%	44
日本株式インデックス ファンド ST	●				日本株式インデックス・オープンVA1＊	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	98.3%	1.7%	171
世界株式ファンド FIE	●	●			フィデリティ・グローバル・ファンドVA5＊	フィデリティ投信株式会社	96.5%	3.5%	257
外国株式インデックス ファンド ST		●			外国株式インデックス・オープンVA1＊	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	97.6%	2.4%	73
外国債券インデックス ファンド ST				●	外国債券インデックス・オープンVA1＊	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	97.2%	2.8%	21
世界バランスファンド（成長）ST	●	●	●	●	マイセレクション50VA1＊	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	96.7%	3.3%	48
世界バランスファンド（積極）ST	●	●	●	●	マイセレクション75VA1＊	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	96.7%	3.3%	81
世界バランスファンド PT	●	●	●	●	ピクテ・グローバル・バランス・オープンVA－C＊	ピクテ・ジャパン株式会社	97.4%	2.6%	25
マネーファンド MB				●	三菱UFJ MRF（マネー・リザーブ・ファンド）	三菱UFJアセットマネジメント株式会社	97.0%	3.0%	141

＊適格機関投資家専用に設定される投資信託です。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定（ファンド）グループ

投資信託の運用方針

主な投資対象の投資信託	運用方針
ジャパン・グロース・ファンドVA1（愛称：得意技VA1）＊	主に日本の上場株式に投資し、独自の調査に基づき企業の成長性を重視し銘柄を選定することによって、TOPIX（東証株価指数）（配当込み）を長期的に上回る運用成果の獲得を目指します。
フィデリティ・日本成長株・ファンドVA5＊	成長企業の株式に投資することにより、TOPIX（東証株価指数）を上回る投資成果を目指します。市場平均等に比較し成長力があり、その持続が長期的に可能と判断される成長企業を独自の個別企業分析により選定し投資を行います。
キャッシュフロー経営評価オープンVA1（愛称：選球眼VA1）＊	主に日本の上場株式に投資し、企業本来の投資価値に比べ現在の株価が割安と判断される銘柄を選定することによって、TOPIX（東証株価指数）（配当込み）を長期的に上回る運用成果の獲得を目指します。
日本株式インデックス・オープンVA1＊	主に日本の上場株式に投資し、システム化された運用手法をとるなど、長期的な投資効率を向上させ、TOPIX（東証株価指数）（配当込み）に連動する投資成果の獲得を目指します。
フィデリティ・グローバル・ファンドVA5＊	市場平均等に比較し成長力があり、その持続が長期的に可能と判断される成長企業に投資し、世界株式市場の代表的指数であるMSCIワールド（円ベース）を中長期的に上回る投資成果の獲得を目指します。
外国株式インデックス・オープンVA1＊	主に先進各国の上場株式に投資し、システム化された運用手法で、世界株式市場の代表的指数であるMSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）に連動する投資成果の獲得を目指します。
外国債券インデックス・オープンVA1＊	主に先進各国の公社債に投資し、FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）に連動する投資成果の獲得を目指します。
マイセレクション50VA1＊	主に日本を含む世界各国の株式と公社債、および円短期金融商品に分散投資し（基本資産配分：株式50%、債券45%、短期金融資産5%）、信託財産の安定運用を目指します。
マイセレクション75VA1＊	主に日本を含む世界各国の株式と公社債、および円短期金融商品に分散投資し（基本資産配分：株式75%、債券22%、短期金融資産3%）、信託財産の安定運用を目指します。
ピクテ・グローバル・バランス・オープンVA－C＊	主に日本を含む先進各国の株式および公社債に分散投資（基本資産配分：株式50%、債券50%）することによって中長期的信託財産の安定的な成長を目指します。収益性と安定性をバランスよく追求します。
三菱UFJ MRF（マネー・リザーブ・ファンド）	内外の公社債およびコマーシャル・ペーパーを中心に投資し、安定した収益の確保を目指します。投資対象とする有価証券は信用度が高く、残存期間が短いものとします。外貨建資産への投資については、円貨で約定・決済するもの（為替リスクの生じないもの）に限ります。

＊適格機関投資家専用に設定される投資信託です。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定 ユニットプライスと収益率の推移

日本株式グロースファンド ST



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−5.36%	−3.12%	−0.96%	18.17%	89.17%	208.16%

日本株式グロースファンド FIE



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−3.87%	−2.51%	1.72%	13.12%	55.61%	190.99%

日本株式バリューファンド ST



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	21.39%

日本株式インデックスファンド ST



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−3.64%	−0.73%	5.91%	17.94%	72.87%	184.91%

世界株式ファンド FIE



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−2.25%	−2.74%	−3.24%	−3.23%	47.16%	429.86%

外国株式インデックスファンド ST



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	0.63%	−0.12%	4.33%	12.93%	78.72%	497.83%

※特別勘定のユニットプライスは当初100で設定されております。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定 ユニットプライスと収益率の推移

外国債券インデックスファンド ST



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	1.13%	−3.62%	−5.85%	−2.76%	9.34%	27.34%

世界バランスファンド（成長） ST



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	26.22%

世界バランスファンド（積極） ST



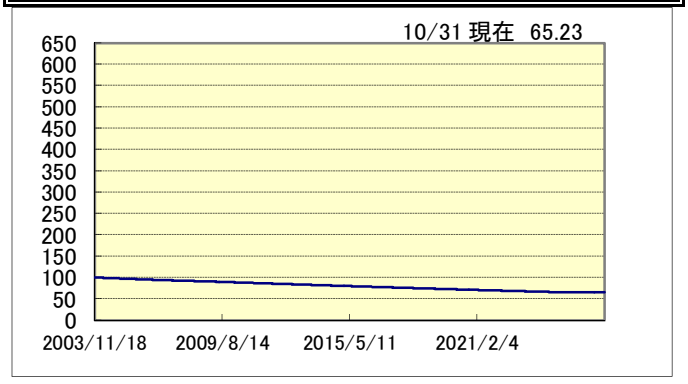
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	21.59%

世界バランスファンド PT



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	24.12%

マネーファンド MB



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	−2.38%	−34.77%

※特別勘定のユニットプライスは当初100で設定されております。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株式グロースファンド ST

【特別勘定が投資する投資信託】
ジャパン・グロース・ファンドVA1（適格機関投資家専用）
（愛称：得意技 VA1）
【運用会社】
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

主要投資対象
日本の上場株式。主に「ジャパン・グロース マザーファンド」受益証券を通じて投資が行われます。

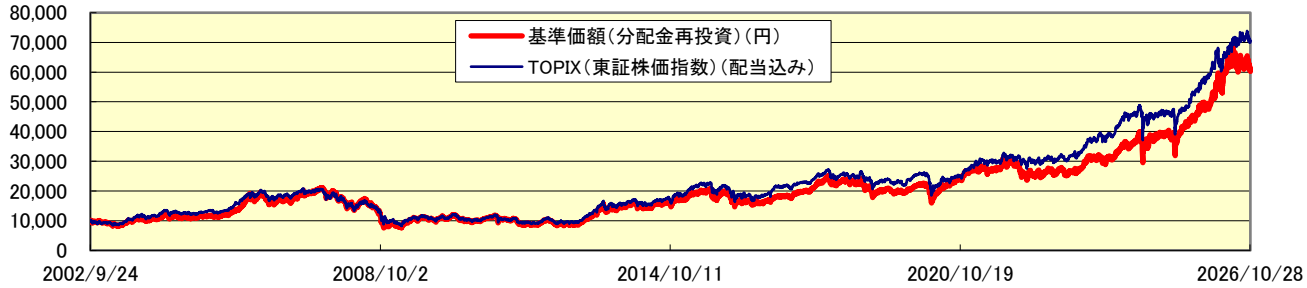
運 用 方 針
主に日本の上場株式に投資し、短期的な市場動向に左右されず、独自の調査にもとづいたファンダメンタル重視の投資を行うことで、将来の資産価値極大化をめざした中長期的な視点からの運用を行うことを基本とします。

2026年10月30日現在

1．ファンドの運用経過

※ TOPIX（東証株価指数）（配当込み）は当ファンドのベンチマークではありません。

① 基準価額推移グラフ(TOPIX（東証株価指数）（配当込み）は当初設定日を10,000として指数化。データは設定日から基準日までを表示。)



※基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
※お客様本位でわかりやすい情報開示を行うために、2023年6月末基準より、株式を投資対象とするファンドの設定来からのベンチマークおよび参考指数を、ファンドの運用成果により近い「配当込み指数」に統一しました。

② 当月末基準価額

基準価額	59,955　円	既払分配金（税引前）	60　円	純資産総額	28　百万円

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

③ 騰落率

（単位：%）

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
当ファンド	−5.31	−2.66	0.12	20.81	103.96	502.00
TOPIX（東証株価指数）（配当込み）	−3.48	−0.04	7.54	21.71	88.79	600.19

※騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。

2．月末のポートフォリオの状況

① 資産別構成比　（純資産比率(%)）

マザーファンド	99.95
短期金融資産等	0.05
合計	100.00

【市場別株式組入状況】
（マザーファンド）　（単位：%）

	銘柄数	比率
プライム市場	57	98.19
スタンダード市場	0	0.00
グロース市場	0	0.00
その他の市場	0	0.00
株式合計	57	98.19
短期金融資産等	−	1.81
株式先物取引	−	0.00

比率は純資産比率

② 組入上位10銘柄（マザーファンド）

（単位：%）

	銘柄名	業種	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	6.26
2	日立製作所	電気機器	4.89
3	ソニーグループ	電気機器	4.86
4	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	4.80
5	三菱商事	卸売業	3.39
6	東京エレクトロン	電気機器	3.29
7	リクルートホールディングス	サービス業	3.24
8	FOOD & LIFE COMPANIES	小売業	2.92
9	キーエンス	電気機器	2.82
10	東京海上ホールディングス	保険業	2.70

比率は純資産比率

③ 組入上位10業種
（マザーファンド）　（単位：%）

	業種	比率
1	電気機器	26.93
2	銀行業	12.32
3	機械	9.52
4	化学	7.23
5	情報・通信業	6.68
6	卸売業	5.90
7	小売業	4.92
8	サービス業	4.15
9	輸送用機器	3.61
10	非鉄金属	3.22

比率は株式資産比率
東証33業種分類

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株式グロースファンド ST

【特別勘定が投資する投資信託】
ジャパン・グロース・ファンドVA1（適格機関投資家専用）
（愛称：得意技 VA1）
【運用会社】
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

主要投資対象

日本の上場株式。主に「ジャパン・グロース マザーファンド」受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

主に日本の上場株式に投資し、短期的な市場動向に左右されず、独自の調査にもとづいたファンダメンタル重視の投資を行うことで、将来の資産価値極大化をめざした中長期的な視点からの運用を行うことを基本とします。

3. ファンドマネージャーのコメント

【投資実績】
生成AI（人工知能）関連需要が拡大する中で中長期的な利益成長が見込まれる四国化成ホールディングスや、DX（デジタルトランスフォーメーション）需要の取り込みによる事業機会の拡大が期待される日本電気などを購入しました。一方で、株価上昇に伴う利益確定の観点からコナミグループ、提供するサービスを大手加盟店が内製化するリスクもあり、利益の伸び率鈍化が警戒されるGMOペイメントゲートウェイなどを売却しました。

【市場の見通し】
地政学リスクの高まりを背景としたエネルギー価格の高止まりや、各国の金融政策や金利動向を巡る不透明感、AI関連投資の持続性に対する懸念などが、引き続き株式市場の変動要因になるとみています。一方で、日本企業の業績は総じて堅調に推移すると見込まれ、株主還元の拡大姿勢も維持されています。また、安定した政権基盤の下で経済政策の実効性向上が期待されることに加え、コーポレートガバナンス改革の進展を通じて、資本効率の改善や手元資金の有効活用に向けた取り組みが進むと見込まれることから、底堅い展開を予想します。

【今後の運用方針】
企業業績とバリュエーションを重視した割安成長銘柄への投資を行い、中長期的に市場平均を上回るパフォーマンスを目指します。中長期の利益成長とROE（自己資本利益率）に着目した業績好調な銘柄を中心とし、バリュエーションにも留意した銘柄選択によってポートフォリオを構築します。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
日本株式グロースファンド FIE

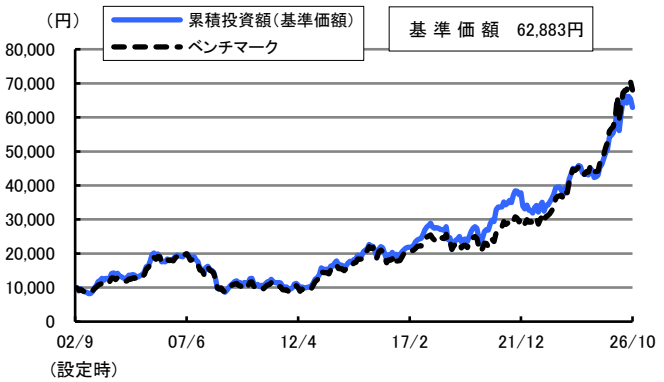
【特別勘定が投資する投資信託】
フィデリティ・日本成長株・ファンドVA5（適格機関投資家専用）

【運用会社】
フィデリティ投信株式会社

主要投資対象
日本の上場株式。主にフィデリティ・日本成長株・マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針
成長企業の株式に投資することにより、TOPIX（東証株価指数）を上回る投資成果を目指します。市場平均等に比較し成長力があり、その持続が長期的に可能と判断される成長企業を独自の個別企業分析により選定し投資を行い、信託財産の成長を目指します。

設定来の運用実績　（2026年10月30日現在）



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。※基準価額は運用管理費用控除後のものです。※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

累積リターン　（2026年10月30日現在）

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	−3.80%	−2.04%	3.00%	16.19%	68.48%	528.83%
ベンチマーク	−3.48%	−0.04%	7.54%	21.71%	88.79%	580.06%

※ 累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。
※ ベンチマーク：TOPIX（配当込）
＊TOPIX（配当込）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されており、配当を考慮したものです。
＊東証株価指数（TOPIX）（以下「TOPIX」という。）の指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

過去5期分の収益分配金（1万口当たり／税込）

第 20期(2021.11.30)	0円
第 21期(2022.11.30)	0円
第 22期(2023.11.30)	0円
第 23期(2024.12.02)	0円
第 24期(2025.12.01)	0円

純資産総額	19.5 億円	（2026年10月30日現在）

コメント　（2026年10月30日現在）

当月の東京株式市場は、人工知能（AI）のインフラ投資を巡る資金調達やその持続性に対する懸念を背景としてAI・半導体関連株が調整したことを受け、下落しました。
米半導体メモリ大手の好決算や、米労働市場の減速を受けて米利上げ観測が後退したことを支えとして上昇して始まりました。しかし、それまで上昇していたAI・半導体関連株を中心に利益確定売りが広がると、世界的なインフレ懸念を背景とした金利先高観に加え、米AI向けクラウドサービス企業の社債価格急落を契機としてAI投資減速への懸念が高まり、月半ばにかけて株価は急落しました。その後も、AI関連企業による巨額のインフラ投資計画を受けて、関連企業の財務に対する懸念が高まったことも下押し圧力となり、続落しました。米AI新興企業が新規株式公開（IPO）に向けて公表した上場申請書類で収益性の改善が示されたほか、米連邦公開市場委員会（FOMC）で金利が据え置かれたことも安心材料となり反発する場面もあったものの、米AI関連企業の決算発表を受けてAIインフラ投資の持続性に対する懸念が再燃し、月末に再び下落しました。
月間の騰落率は、TOPIX（配当込）が−3.48%、日経平均株価は−5.19%でした。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

組入上位10銘柄（マザーファンド・ベース）　（2026年9月30日現在）

	銘 柄	業 種	比率
1	三菱UFJﾌｨﾅﾝｼｬﾙ・ｸﾞﾙｰﾌﾟ	銀行業	5.0%
2	みずほﾌｨﾅﾝｼｬﾙｸﾞﾙｰﾌﾟ	銀行業	4.3%
3	ﾘｸﾙｰﾄﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ	サービス業	4.1%
4	村田製作所	電気機器	3.0%
5	日立製作所	電気機器	2.8%
6	ｷｰｴﾝｽ	電気機器	2.6%
7	横浜ﾌｨﾅﾝｼｬﾙｸﾞﾙｰﾌﾟ	銀行業	2.4%
8	三井物産	卸売業	2.3%
9	三菱電機	電気機器	2.3%
10	東京ｴﾚｸﾄﾛﾝ	電気機器	2.0%

（ 組入銘柄数 ： 176 ）　上位10銘柄合計　30.8%
（対純資産総額比率）

ポートフォリオの状況（マザーファンド・ベース）　（2026年9月30日現在）

資産別組入状況

株式	98.1%
新株予約権証券（ﾜﾗﾝﾄ）	−
投資信託・投資証券	−
現金・その他	1.9%

市場別組入状況

東証プライム	97.4%
東証スタンダード	0.5%
東証グロース	0.2%
その他市場	−

組入上位5業種

電気機器	21.8%
銀行業	15.7%
卸売業	7.6%
機械	7.3%
サービス業	5.1%

（対純資産総額比率）

＊各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。
＊業種は東証33業種に準じて表示しています。
＊未払金等の発生により「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株式バリューファンド ST

【特別勘定が投資する投資信託】
キャッシュフロー経営評価オープンVA1（適格機関投資家専用）
（愛称：選球眼 VA1）
【運用会社】
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

主要投資対象

日本の上場株式。主に「キャッシュフロー経営評価 マザーファンド」受益証券を通じて投資が行われます。

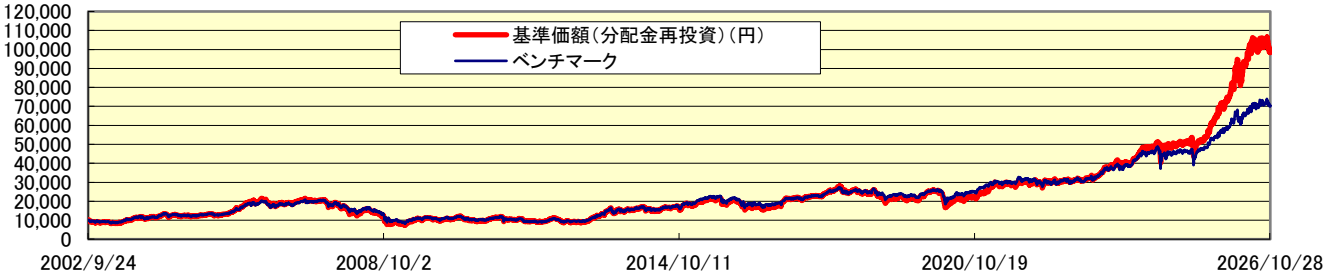
運 用 方 針

主に日本の上場株式に投資し、企業本来の投資価値に比べ現在の株価が割安と判断される銘柄を選定することによって、TOPIX（東証株価指数）（配当込み）を長期的に上回る運用成果の獲得を目指します。

2026年10月30日現在

1．ファンドの運用経過

① 基準価額推移グラフ（ベンチマークは当初設定日を10,000として指数化。データは設定日から基準日までを表示。）



※基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
※ベンチマークはTOPIX（東証株価指数）（配当込み）です。
※お客様本位でわかりやすい情報開示を行うために、2023年6月末基準より、株式を投資対象とするファンドの設定来からのベンチマークおよび参考指数を、ファンドの運用成果により近い「配当込み指数」に統一しました。

② 当月末基準価額

基準価額	98,001　円	既払分配金（税引前）	60　円	純資産総額	44　百万円

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

③ 騰落率

（単位：%）

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
当ファンド	−5.77	−2.52	6.61	36.86	152.37	883.79
ベンチマーク	−3.48	−0.04	7.54	21.71	88.79	600.19

※騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。

2．月末のポートフォリオの状況

① 資産別構成比（純資産比率(%)）

マザーファンド	99.95
短期金融資産等	0.05
合計	100.00

【市場別株式組入状況】

（マザーファンド）　（単位：%）

	銘柄数	比率
プライム市場	68	97.57
スタンダード市場	0	0.00
グロース市場	0	0.00
その他の市場	0	0.00
株式合計	68	97.57
短期金融資産等	−	2.43
株式先物取引	−	0.00

比率は純資産比率

② 組入上位10銘柄　（マザーファンド）

（単位：%）

	銘柄名	業種	比率
1	リクルートホールディングス	サービス業	4.41
2	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	3.88
3	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.41
4	ソニーグループ	電気機器	3.17
5	豊田通商	卸売業	3.15
6	NTT	情報・通信業	3.03
7	三菱電機	電気機器	2.53
8	本田技研工業	輸送用機器	2.48
9	アドバンテスト	電気機器	2.46
10	パナソニック　ホールディングス	電気機器	2.41

比率は純資産比率

③ 組入上位10業種

（マザーファンド）　（単位：%）

	業種	比率
1	電気機器	24.54
2	銀行業	10.27
3	卸売業	7.06
4	保険業	5.47
5	情報・通信業	5.06
6	輸送用機器	4.90
7	サービス業	4.52
8	機械	4.21
9	電気・ガス業	4.11
10	建設業	3.76

比率は株式資産比率
東証33業種分類

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株式バリューファンド ST

【特別勘定が投資する投資信託】
キャッシュフロー経営評価オープンVA1（適格機関投資家専用）
（愛称：選球眼 VA1）
【運用会社】
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

主要投資対象

日本の上場株式。主に「キャッシュフロー経営評価 マザーファンド」受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

主に日本の上場株式に投資し、企業本来の投資価値に比べ現在の株価が割安と判断される銘柄を選定することによって、TOPIX（東証株価指数）（配当込み）を長期的に上回る運用成果の獲得を目指します。

3. ファンドマネージャーのコメント

【投資実績】
買付銘柄は、業績の推移と比べて株価が割安と判断したキーエンス、マクセルなどです。
売付銘柄は、業績に対する株価の割安感が薄れた小糸製作所、リクルートホールディングスなどです。

【市場の見通し】
日本経済は、賃上げによる消費拡大と企業の設備投資の増加に加え、インフレ定着による収益改善が進むことで、企業業績の拡大が見込まれます。日本株式市場は、中東情勢悪化を背景とした原油価格上昇による影響を注視する必要がありますが、中長期的には経済環境を背景とした上昇基調が続くと考えられます。

【今後の運用方針】
ファンドの特色である「割安+業績モメンタム」の観点から、ポートフォリオ構築を行います。キャッシュフローおよび収益・資産で評価した企業価値対比で割安かつ株価再評価のきっかけを有する銘柄に投資することで、中長期的なリターン創出を狙います。当面は、AI（人工知能）市場の中長期的な成長の中で競争優位を有する銘柄や、構造改革や株主還元の強化が期待される銘柄に注目します。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株式インデックスファンド ST

【特別勘定が投資する投資信託】
日本株式インデックス・オープンVA1（適格機関投資家専用）
【運用会社】
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

主要投資対象

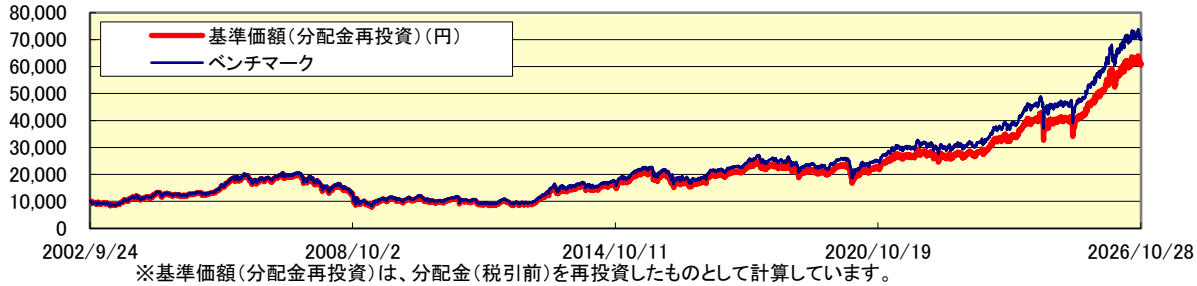
日本の上場株式。主に「国内株式インデックス マザーファンド」受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

主に日本の上場株式に投資し、システム化された運用手法をとるなど、長期的な投資効率を向上させ、TOPIX（東証株価指数）（配当込み）に連動する投資成果の獲得を目指します。

2026年10月30日現在

① 基準価額推移グラフ（ベンチマークは当初設定日を10,000として指数化。データは設定日から基準日までを表示。）



※基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
※ベンチマークはTOPIX（東証株価指数）（配当込み）です。
※お客様本位でわかりやすい情報開示を行うために、2023年6月末基準より、株式を投資対象とするファンドの設定来からのベンチマークおよび参考指数を、ファンドの運用成果により近い「配当込み指数」に統一しました。

② 当月末基準価額

基準価額	60,358　円
既払分配金（税引前）	60　円
総資産総額	179　百万円

③ 資産構成比（対純資産、%）

マザーファンド	99.95
短期金融資産等	0.05
合　計	100.00

【マザーファンドの資産構成比（対純資産、%）】

株式	97.70
株式先物取引	2.29
短期金融資産等	0.01

銘柄数：1,654

④ 騰落率　（単位：%）

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
当ファンド	−3.54	−0.20	7.18	20.91	85.15	506.00
ベンチマーク	−3.48	−0.04	7.54	21.71	88.79	600.19
差	−0.05	−0.16	−0.36	−0.80	−3.64	−94.19

※騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

⑤ 業種別組入比率（マザーファンド）　（単位：%）

業種	ファンド	市場	差
水産・農林業	0.06	0.07	▲ 0.00
鉱業	0.38	0.39	▲ 0.00
建設業	2.03	2.05	▲ 0.01
食料品	2.87	2.87	0.01
繊維製品	0.28	0.29	▲ 0.00
パルプ・紙	0.13	0.13	▲ 0.00
化学	4.57	4.57	0.00
医薬品	3.60	3.60	0.00
石油・石炭製品	0.54	0.54	0.00
ゴム製品	0.55	0.55	▲ 0.00
ガラス・土石製品	0.70	0.70	▲ 0.00
鉄鋼	0.68	0.68	0.00

業種	ファンド	市場	差
非鉄金属	1.91	1.91	▲ 0.00
金属製品	0.42	0.42	0.00
機械	5.28	5.28	▲ 0.00
電気機器	20.07	20.06	0.01
輸送用機器	5.16	5.16	▲ 0.00
精密機器	1.85	1.85	▲ 0.00
その他製品	2.17	2.17	0.00
電気・ガス業	1.24	1.24	▲ 0.00
陸運業	1.94	1.94	▲ 0.00
海運業	0.68	0.68	▲ 0.00
空運業	0.27	0.27	0.00

業種	ファンド	市場	差
倉庫・運輸関連業	0.14	0.13	0.00
情報・通信業	6.37	6.36	0.01
卸売業	7.68	7.68	▲ 0.00
小売業	3.98	3.99	▲ 0.01
銀行業	11.96	11.96	▲ 0.00
証券、商品先物取引業	0.92	0.92	▲ 0.00
保険業	3.82	3.82	0.00
その他金融業	1.23	1.23	0.00
不動産業	1.63	1.64	▲ 0.00
サービス業	4.87	4.86	0.01
合計	100.00	100.00	−

ファンド：株式資産に占める割合（%）、市場：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）構成比、業種：東証33業種分類

⑥ 組入上位15銘柄（マザーファンド、対株式資産比）　（単位：%）

	銘柄名	業種	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.77
2	トヨタ自動車	輸送用機器	2.65
3	リクルートホールディングス	サービス業	2.60
4	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.42
5	ソニーグループ	電気機器	2.33
6	日立製作所	電気機器	2.28
7	アドバンテスト	電気機器	2.01
8	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.87

	銘柄名	業種	比率
9	東京エレクトロン	電気機器	1.76
10	東京海上ホールディングス	保険業	1.55
11	三菱商事	卸売業	1.52
12	ソフトバンクグループ	情報・通信業	1.52
13	キーエンス	電気機器	1.50
14	伊藤忠商事	卸売業	1.46
15	三井物産	卸売業	1.32

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
世界株式ファンド FIE

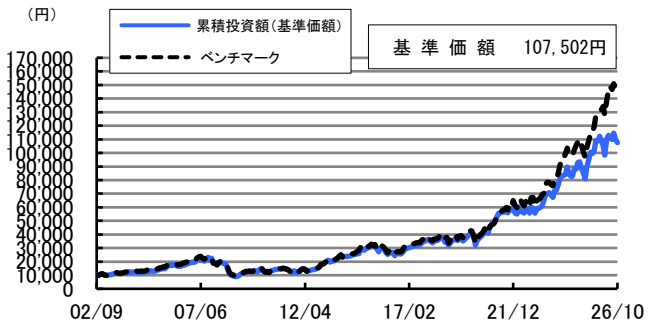
【特別勘定が投資する投資信託】
フィデリティ・グローバル・ファンドVA5（適格機関投資家専用）

【運用会社】
フィデリティ投信株式会社

主要投資対象
日本を含む世界の株式。主にフィデリティ・グローバル・マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針
市場平均等に比較し成長力があり、その持続が長期的に可能と判断される成長企業に投資し、世界株式市場の代表的指数であるMSCIワールド（円ベース）を中長期的に上回る投資成果の獲得を目指します。

設定来の運用実績　（2026年10月30日現在）



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。※基準価額は運用管理費用控除後のものです。※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

コメント　（2026年10月30日現在）

世界株式相場は、MSCIワールド・インデックスの月間騰落率で−0.74%。
【米国株式】月間騰落率は、S&P500種指数が−0.93%、ダウ工業株30種平均は+1.70%、ナスダック指数は−5.30%。米国株式は下落しました。AI関連株の調整などを背景に、株価は下落しました。上旬は、雇用統計を受けて追加利上げ観測が後退したことなどから上昇したものの、AI関連企業の成長性を巡る懸念から、半導体株を中心に上値の重い展開となりました。中旬は、インフレ指標の加速や原油価格の上昇に加え、AI関連企業の資金調達への懸念が重しとなり、テクノロジー株を中心に下落しました。下旬は、AI関連株への買い戻しから一時反発したものの、主要テクノロジー企業の決算発表後に売りが強まり、月末にかけて下落しました。月間では、ディフェンシブ性の高い銘柄群が上昇した一方で、AI関連株や大型ハイテク株は相対的に軟調であったことが指数を押し下げました。
【欧州株式】MSCIヨーロッパ・インデックスの月間騰落率は+0.87%。月上旬は、原油や天然ガスの先物価格が上昇したことやフランスの財政懸念の高まりを背景に欧州各国での金利上昇が嫌気され、市場は下落しました。イラン情勢を巡る不透明感の高まりも市場の重しとなりました。月中旬は、AIや半導体関連株への不透明感が高まる中、ヘルスケアや生活必需品などディフェンシブ株が物色されました。長期金利が低下したことやドイツとフランスでEUの欧州製電気自動車の優遇措置案で合意したことが好感され、市場は上昇しました。月下旬は、原油先物の上昇やフランスを巡る不透明感を受けて下落する場面がありました。しかしその後、ドイツの企業景況感指数が上振れしたことや市場予想を上回る決算を発表した企業が物色され、市場は堅調に推移しました。
【アジア株式】MSCI AC アジア・イースト・インデックス（除く日本）の月間騰落率は−9.01%。原油高によるインフレ懸念に加え、AI関連株への先行き不透明感が強まり、株価は下落しました。
【日本株式】TOPIX（配当込）は−3.48%。当月の東京株式市場は、人工知能（AI）のインフラ投資を巡る資金調達やその持続性に対する懸念を背景としてAI・半導体関連株が調整したことを受け、下落しました。
米半導体メモリ大手の好決算や、米労働市場の減速を受けて米利上げ観測が後退したことを支えとして上昇して始まりました。しかし、それまで上昇していたAI・半導体関連株を中心に利益確定売りが広がると、世界的なインフレ懸念を背景とした金利先高観に加え、米AI向けクラウドサービス企業の社債価格急落を契機としてAI投資減速への懸念が高まり、月半ばにかけて株価は急落しました。その後も、AI関連企業による巨額のインフラ投資計画を受けて、関連企業の財務に対する懸念が高まったことも下押し圧力となり、続落しました。米AI新興企業が新規株式公開（IPO）に向けて公表した上場申請書類で収益性の改善が示されたほか、米連邦公開市場委員会（FOMC）で金利が据え置かれたことも安心材料となり反発する場面もあったものの、米AI関連企業の決算発表を受けてAIインフラ投資の持続性に対する懸念が再燃し、月末に再び下落しました。
【為替】米ドル／円相場は、約0.22%の円安（1米ドル＝157.14円→157.49円）。
ユーロ／円相場は、約1.50%の円高（1ユーロ＝178.48円→175.8円）。
（※文中の騰落率は表記の無い限り現地月末、現地通貨ベース、為替はWMロイターを使用。）

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。また、為替相場等の影響により当ファンド、およびベンチマークの動向と異なる場合があります。

累積リターン　（2026年10月30日現在）

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	−2.16%	−2.28%	−2.34%	−1.07%	59.61%	975.02%
ベンチマーク	−0.53%	−0.44%	5.65%	15.04%	92.55%	1360.69%

※ 累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。
※ ベンチマーク：MSCIワールド・インデックス（税引前配当金込／円ベース）
＊ MSCI ワールド・インデックスとは、MSCI Inc.が算出する、世界主要国の株式市場の動きを示す指数です。MSCI ワールド・インデックスに関する著作権、およびその他知的所有権はMSCI Inc.に帰属しております。MSCI Inc.が指数構成銘柄への投資を推奨するものではなく、MSCI Inc.は当指数の利用に伴う如何なる責任も負いません。MSCI Inc.は情報の確実性および完結性を保証するものではなく、MSCI Inc.の許諾なしにデータを複製・頒布・使用等することは禁じられております。
＊MSCI ワールド・インデックス(税引前配当金込/円ベース)は、WM Reutersが発表する換算レートをもとに委託会社が算出しています。

過去5期分の収益分配金（1万口当たり／税込）

第 20期(2021.11.30)	0円
第 21期(2022.11.30)	0円
第 22期(2023.11.30)	0円
第 23期(2024.12.02)	0円
第 24期(2025.12.01)	0円

純資産総額	2.5 億円	（2026年10月30日現在）

組入上位10銘柄　（マザーファンド・ベース）　（2026年9月30日現在）

	銘 柄	国・地域※	業 種	比率
1	マイクロソフト	アメリカ	ソフトウェア・サービス	6.8%
2	台湾積体電路製造（TSMC）	台湾	半導体・半導体製造装置	6.1%
3	アマゾン・ドット・コム	アメリカ	一般消費財・サービス流通・小売り	5.8%
4	エヌビディア	アメリカ	半導体・半導体製造装置	5.3%
5	アルファベット（クラスA）	アメリカ	メディア・娯楽	5.0%
6	メタ・プラットフォームズ	アメリカ	メディア・娯楽	3.1%
7	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	アメリカ	銀行	3.0%
8	SKハイニックス	韓国	半導体・半導体製造装置	2.9%
9	アップル	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.7%
10	ダナハー	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.4%

（ 組入銘柄数 ： 57 ）　上位10銘柄合計　43.2%
（対純資産総額比率）

※発行国・地域を表示しています。
※上記銘柄はご参考のため、英文表記の一部をカタカナで表記しております。
実際の発行体名と異なる場合があります。

ポートフォリオの状況　（マザーファンド・ベース）　（2026年9月30日現在）

資産別組入状況

株式（実質）		99.3%
	うち現物	99.3%
	うち先物	−
投資信託・投資証券		0.3%
現金・その他		0.4%

組入上位5業種

半導体・半導体製造装置	20.8%
メディア・娯楽	9.5%
資本財	9.3%
銀行	8.1%
医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	7.8%

組入上位5ヶ国・地域

アメリカ	56.5%
オランダ	6.4%
台湾	6.1%
イギリス	5.0%
フランス	3.6%

※国・地域は発行国・地域を表示しています。
（対純資産総額比率）

＊ 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。
＊ 業種はMSCI/S&P GICS※に準じて表示しています。
※MSCI/S&P GICSとは、スタンダード&プアーズがMSCI Inc.と共同で作成した世界産業分類基準（Global Industry Classification Standard =GICS）です。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

外国株式インデックスファンド ST

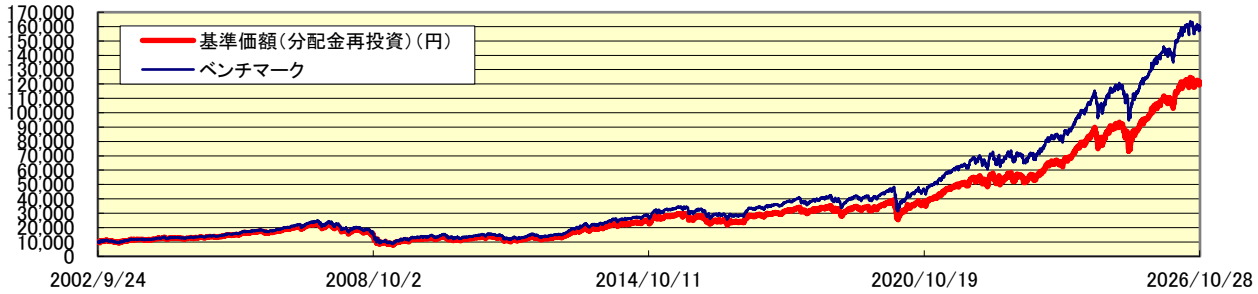
【特別勘定が投資する投資信託】
外国株式インデックス・オープンVA1（適格機関投資家専用）
【運用会社】
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

主要投資対象
日本を除く世界の株式。主に「外国株式インデックス マザーファンド」受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針
主に先進各国の上場株式に投資し、システム化された運用手法で、世界株式市場の代表的指数であるMSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）に連動する投資成果の獲得を目指します。

2026年10月30日現在

① 基準価額推移グラフ(インデックスは当初設定日を10,000として指数化。データは設定日から基準日までを表示。)



※インデックスはMSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）
※基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
※お客様本位でわかりやすい情報開示を行うために、2023年6月末基準より、株式を投資対象とするファンドの設定来からのベンチマークおよび参考指数を、ファンドの運用成果により近い「配当込み指数」に統一しました。

② 当月末基準価額

基準価額	120,768　円
既払分配金（税引前）	60　円
総資産総額	72　百万円

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

③ 資産構成比（対純資産、%）

マザーファンド	99.95
短期金融資産等	0.05
合　計	100.00

【マザーファンドの資産構成比（対純資産、%）】

株式等	97.73
株式先物取引	2.26
短期金融資産等	0.01

純資産
1,235,438　百万円

銘柄数：1,083

※株式等の比率、銘柄数にはREIT等を含みます。

④ 騰落率　（単位：%）

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
当ファンド	0.82	0.42	5.57	15.51	93.19	1,111.01
ベンチマーク	0.85	0.65	6.03	16.68	99.36	1,493.61
差	−0.03	−0.24	−0.47	−1.17	−6.17	−382.60

※騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。

⑤ 通貨別組入比率（マザーファンド）(円換算ベース)　（単位：%）

	通貨	ファンド		通貨	ファンド
1	米国ドル	77.83	8	香港ドル	0.42
2	ユーロ	8.41	9	デンマーク・クローネ	0.42
3	カナダ・ドル	3.65	10	シンガポール・ドル	0.39
4	英国ポンド	3.57	11	イスラエル・シェケル	0.21
5	スイス・フラン	2.44	12	ノルウェー・クローネ	0.17
6	オーストラリア・ドル	1.66	13	ニュージーランド・ドル	0.04
7	スウェーデン・クローナ	0.77	14	−	−

⑥ 組入上位10銘柄（マザーファンド、対株式資産比）(円換算ベース)　（単位：%）

	銘柄名	国名	比率		銘柄名	国名	比率
1	APPLE INC	米国	5.97	6	BROADCOM INC	米国	1.82
2	NVIDIA CORP	米国	5.72	7	META PLATFORMS INC-CLASS A	米国	1.60
3	MICROSOFT CORP	米国	4.36	8	ALPHABET INC-CL C	米国	1.54
4	AMAZON.COM	米国	2.75	9	TESLA INC	米国	1.34
5	ALPHABET INC-CL A	米国	1.94	10	ELI LILLY & CO	米国	1.28

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

外国債券インデックスファンド ST

【特別勘定が投資する投資信託】
外国債券インデックス・オープンVA1（適格機関投資家専用）
【運用会社】
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

主要投資対象

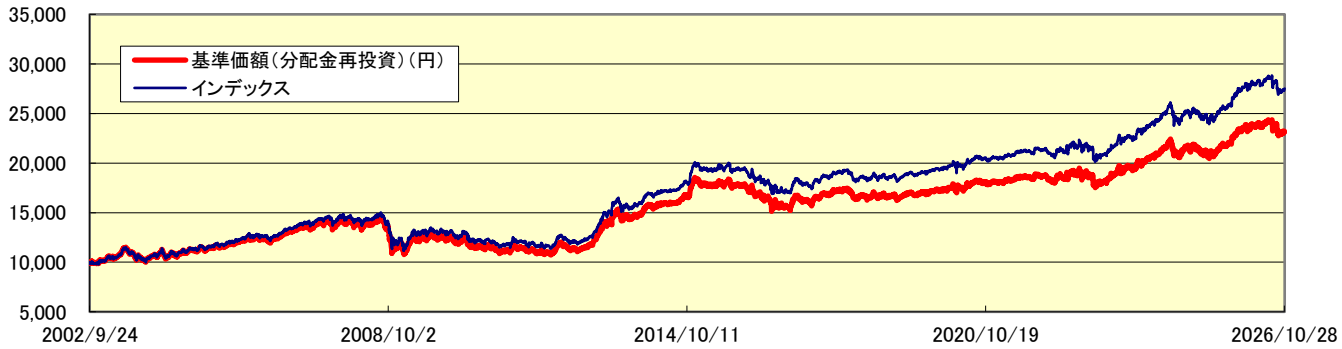
日本を除く世界の債券。主に「外国債券インデックス マザーファンド」受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

主に先進各国の公社債に投資し、FTSE世界国債インデックス（除く日本 円ベース）に連動する投資成果の獲得を目指します。

2026年10月30日現在

① 基準価額推移グラフ(インデックスは当初設定日を10,000として指数化。データは設定日から基準日までを表示。)



※インデックスはFTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
※基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。

② 当月末基準価額

基準価額	23,106　円
既払分配金（税引前）	60　円
総資産総額	21　百万円

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、
あるいは分配金が支払われない場合があります。

③ 資産構成比（対純資産、%）

マザーファンド	99.95
短期金融資産等	0.05
合　計	100.00

【マザーファンドの資産構成比（対純資産(円換算ベース)、%）】

債券	98.97
債券先物取引	0.46
短期金融資産等	0.57

純資産総額
534,449　百万円

銘柄数：1,020

④ 騰落率　（単位：%）

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
当ファンド	1.35	−3.21	−3.36	0.97	19.36	131.94
インデックス	1.34	−2.02	−2.81	1.80	22.57	175.02
差	0.01	−1.19	−0.55	−0.83	−3.21	−43.08

※騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。

⑤ 通貨別組入比率（マザーファンド、対純資産比（円換算ベース））　（単位：%）

	通貨	比率
1	米国ドル	44.33
2	ユーロ	26.72
3	オフショア人民元	13.18
4	英国ポンド	5.72
5	カナダ・ドル	2.10
6	韓国ウォン	1.91
7	オーストラリア・ドル	1.34
8	メキシコ・ペソ	0.82
9	ポーランド・ズロチ	0.69

	通貨	比率
10	マレーシア・リンギット	0.49
11	イスラエル・シェケル	0.44
12	シンガポール・ドル	0.37
13	ニュージーランド・ドル	0.29
14	スウェーデン・クローナ	0.20
15	デンマーク・クローネ	0.20
16	ノルウェー・クローネ	0.18
	日本円（短期金融資産等）	1.03
	合　計	100.00

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

世界バランスファンド（成長）ST

【特別勘定が投資する投資信託】
マイセレクション50VA1（適格機関投資家専用）
【運用会社】
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

主要投資対象

国内株式、国内債券、外国株式、外国債券、および短期金融資産。主に「国内株式インデックス マザーファンド」、「国内債券インデックス マザーファンド」、「外国株式インデックスマザーファンド」、「外国債券インデックス マザーファンド」受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

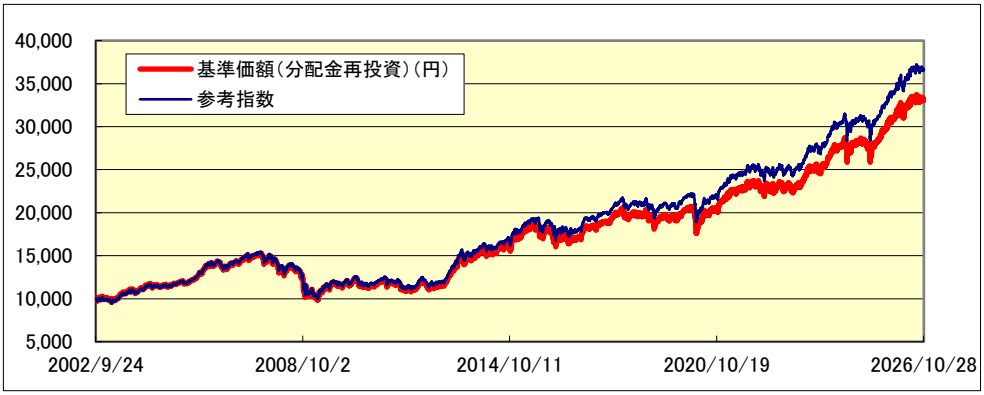
主に日本を含む世界各国の株式と公社債、および円短期金融商品に分散投資し（基本資産配分：株式50%、債券45%、短期金融資産5%）、信託財産の安定運用を目指します。

2026年10月30日現在

①当月末基準価額

基準価額	既払分配金(税引前)	純資産総額
33,007　円	40　円	59　百万円

②当ファンドの運用状況



※お客様本位でわかりやすい情報開示を行うために、2023年6月末基準より、株式を投資対象とするファンドの設定来からのベンチマークおよび参考指数を、ファンドの運用成果により近い「配当込み指数」に統一しました。

（単位：%）

【騰落率】	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
当ファンド	−0.39	0.01	2.86	6.99	34.46	230.92
参考指数	−0.32	0.24	3.20	7.89	35.96	265.80
差	−0.07	−0.24	−0.34	−0.90	−1.49	−34.88

【資産構成比と基準価額貢献度（月次）】

（単位：%）

資産	月末時価構成比	基本資産配分	差	基準価額騰落貢献度
国内株式	34.4	35.0	−0.6	−1.22
国内債券	40.6	40.0	0.6	0.71
外国株式	14.9	15.0	−0.1	0.13
外国債券	5.2	5.0	0.2	0.07
その他	4.9	5.0	−0.1	−0.07
合計	100.0	100.0	−	−0.39

（注1）グラフデータは設定日から基準日までを表示しています。また、基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
（注2）参考指数は各組入資産のベンチマークを指数化したものに、その資産の基本資産配分を乗じたものの合計を、当初設定日を10,000として指数化した合成インデックスです。
（注3）騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
（注4）「基準価額騰落貢献度」の「その他」は、信託報酬、基本資産配分比差異効果及び資金流出入要因他です。
（注5）運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

世界バランスファンド（成長）ST

【特別勘定が投資する投資信託】
マイセレクション50VA1（適格機関投資家専用）
【運用会社】
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

主要投資対象

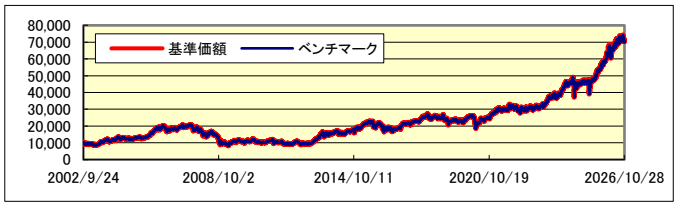
国内株式、国内債券、外国株式、外国債券、および短期金融資産。主に「国内株式インデックス マザーファンド」、「国内債券インデックス マザーファンド」、「外国株式インデックスマザーファンド」、「外国債券インデックス マザーファンド」受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

主に日本を含む世界各国の株式と公社債、および円短期金融商品に分散投資し（基本資産配分：株式50%、債券45%、短期金融資産5%）、信託財産の安定運用を目指します。

③ 資産（マザーファンド）毎の運用状況

【国内株式】



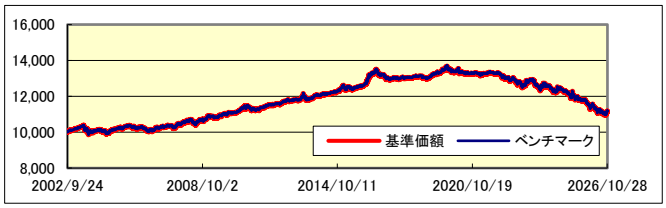
（単位：%）

＜騰落率＞	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	−3.49	−0.04	7.53	21.69	88.76	603.35
ベンチマーク	−3.48	−0.04	7.54	21.71	88.79	600.19
差	−0.01	0.00	−0.02	−0.02	−0.03	3.16

＜市場の動き＞

国内株式市場は下落しました。月上旬は、米ハイテク企業の好決算や、米早期追加利上げ観測が後退したことなどから上昇したものの、その後中東情勢の緊迫化やAI（人工知能）投資の持続性や収益性に対する懸念などを受けて、AI・半導体関連銘柄を中心に下落に転じました。下旬には、一時、米半導体株の反発を受けて上昇する場面もありましたが、月末にはAIへの過剰投資懸念などから下落して終えました。

【国内債券】



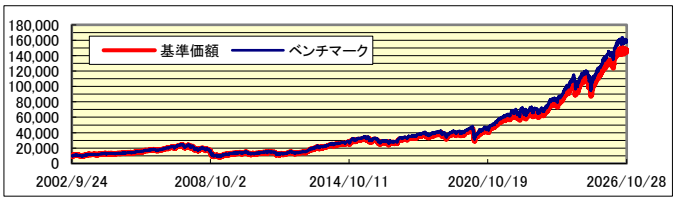
（単位：%）

＜騰落率＞	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	1.76	0.49	−0.64	−5.22	−9.22	11.78
ベンチマーク	1.76	0.48	−0.65	−5.23	−9.22	12.01
差	0.01	0.02	0.02	0.01	0.00	−0.24

＜市場の動き＞

国内債券市場では10年国債利回りが2.755%に低下（価格は上昇）しました。AI（人工知能）関連投資の収益性への懸念やフランスの財政悪化懸念を背景に、安全資産として日本国債が買われました。米国債利回りの低下や堅調な国債入札も相場を支える要因となりました。月末の日銀金融政策決定会合では事前予想どおり政策金利が据え置きとなり、市場の反応は限定的でした。

【外国株式】



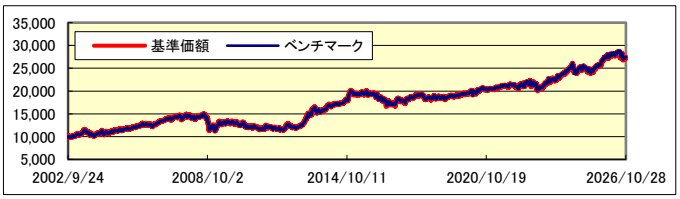
（単位：%）

＜騰落率＞	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	0.89	0.62	6.00	16.46	98.01	1,365.41
ベンチマーク	0.85	0.65	6.03	16.68	99.36	1,493.61
差	0.04	−0.03	−0.04	−0.23	−1.35	−128.20

＜市場の動き＞

米国株式市場は下落しました。月前半は、米雇用統計の予想比下振れなどで早期追加利上げ観測が後退し、上昇しました。月後半は、AI（人工知能）投資の持続性や収益性への懸念の高まりや大手ハイテク企業の決算への失望から、下落しました。
欧州株式市場は上昇しました。月前半は、フランスを起点とした欧州各国の長期金利上昇が重石となり、弱含みました。月後半は、好決算銘柄を物色する動きが強まり、上昇しました。

【外国債券】



（単位：%）

＜騰落率＞	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	1.41	−3.04	−3.02	1.68	21.91	173.40
ベンチマーク	1.34	−2.02	−2.81	1.80	22.57	175.02
差	0.07	−1.02	−0.21	−0.13	−0.66	−1.62

＜市場の動き＞

米国10年国債利回りは、4.929%に低下（価格は上昇）しました。AI（人工知能）関連投資の収益性への懸念やフランス財政不安を背景とした安全資産需要、FRB（米連邦準備理事会）の利上げ見送りなどを背景に米国債が買われました。
ドイツ10年国債利回りは、3.322%に低下しました。フランスの財政不安などを背景に投資家の安全資産への選好が強まりました。

＜各資産のベンチマーク（グラフはマイセレクション50VA1の当初設定日を10,000として指数化し、設定日から基準日までを表示。）＞
国内株式：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）　　外国株式：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）
国内債券：NOMURA-BPI 総合　　外国債券：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

世界バランスファンド（積極）ST

【特別勘定が投資する投資信託】
マイセレクション75VA1（適格機関投資家専用）
【運用会社】
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

主要投資対象

国内株式、国内債券、外国株式、外国債券、および短期金融資産。主に「国内株式インデックス マザーファンド」、「国内債券インデックス マザーファンド」、「外国株式インデックス マザーファンド」、「外国債券インデックス マザーファンド」受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

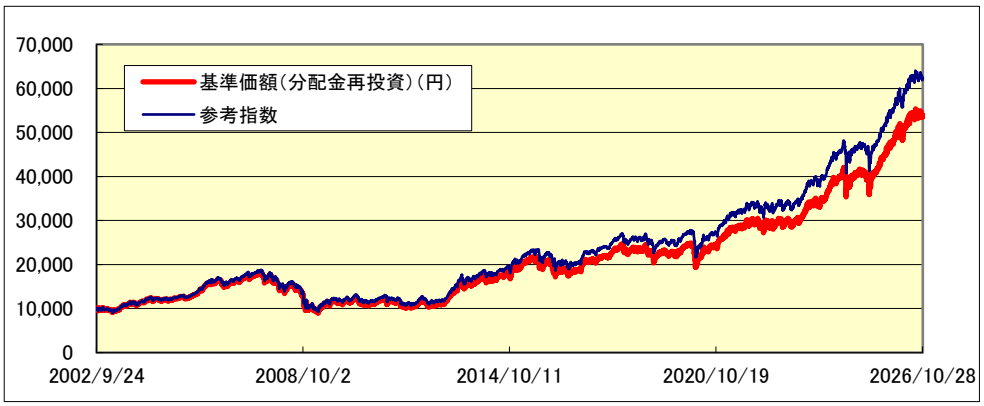
主に日本を含む世界各国の株式と公社債、および円短期金融商品に分散投資し（基本資産配分：株式75%、債券22%、短期金融資産3%）、信託財産の安定運用を目指します。

2026年10月30日現在

①当月末基準価額

基準価額	既払分配金(税引前)	純資産総額
53,390　円	60　円	102　百万円

②当ファンドの運用状況



※お客様本位でわかりやすい情報開示を行うために、2023年6月末基準より、株式を投資対象とするファンドの設定来からのベンチマークおよび参考指数を、ファンドの運用成果により近い「配当込み指数」に統一しました。

（単位：%）

【騰落率】	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
当ファンド	−1.24	−0.03	4.79	13.29	61.10	435.82
参考指数	−1.16	0.18	5.08	14.17	63.61	521.30
差	−0.08	−0.21	−0.28	−0.89	−2.51	−85.47

【資産構成比と基準価額貢献度（月次）】

（単位：%）

資産	月末時価構成比	基本資産配分	差	基準価額騰落貢献度
国内株式	49.5	50.0	−0.5	−1.74
国内債券	17.3	17.0	0.3	0.30
外国株式	25.0	25.0	0.0	0.22
外国債券	5.2	5.0	0.2	0.07
その他	2.9	3.0	−0.1	−0.09
合計	100.0	100.0	−	−1.24

（注1）グラフデータは設定日から基準日までを表示しています。また、基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
（注2）参考指数は各組入資産のベンチマークを指数化したものに、その資産の基本資産配分を乗じたものの合計を、当初設定日を10,000として指数化した合成インデックスです。
（注3）騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
（注4）「基準価額騰落貢献度」の「その他」は、信託報酬、基本資産配分比差異効果及び資金流出入要因他です。
（注5）運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

世界バランスファンド（積極）ST

【特別勘定が投資する投資信託】
マイセレクション75VA1（適格機関投資家専用）
【運用会社】
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

主要投資対象

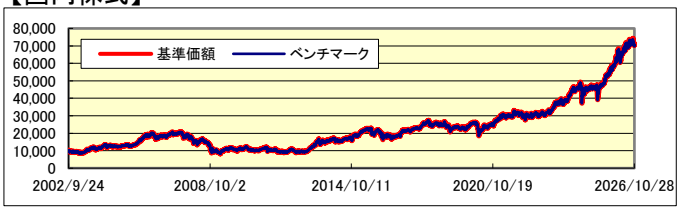
国内株式、国内債券、外国株式、外国債券、および短期金融資産。主に「国内株式インデックス マザーファンド」、「国内債券インデックス マザーファンド」、「外国株式インデックス マザーファンド」、「外国債券インデックス マザーファンド」受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

主に日本を含む世界各国の株式と公社債、および円短期金融商品に分散投資し（基本資産配分：株式75%、債券22%、短期金融資産3%）、信託財産の安定運用を目指します。

③ 資産（マザーファンド）毎の運用状況

【国内株式】



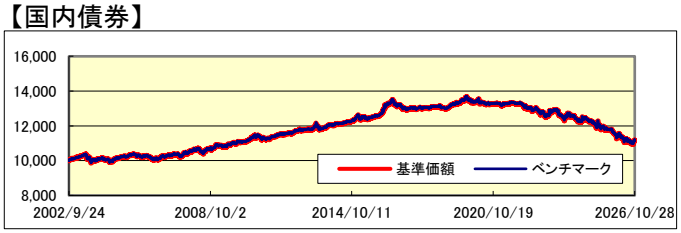
（単位：%）

＜騰落率＞	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	−3.49	−0.04	7.53	21.69	88.76	603.35
ベンチマーク	−3.48	−0.04	7.54	21.71	88.79	600.19
差	−0.01	0.00	−0.02	−0.02	−0.03	3.16

＜市場の動き＞

国内株式市場は下落しました。月上旬は、米ハイテク企業の好決算や、米早期追加利上げ観測が後退したことなどから上昇したものの、その後中東情勢の緊迫化やAI（人工知能）投資の持続性や収益性に対する懸念などを受けて、AI・半導体関連銘柄を中心に下落に転じました。下旬には、一時、米半導体株の反発を受けて上昇する場面もありましたが、月末にはAIへの過剰投資懸念などから下落して終えました。

【国内債券】



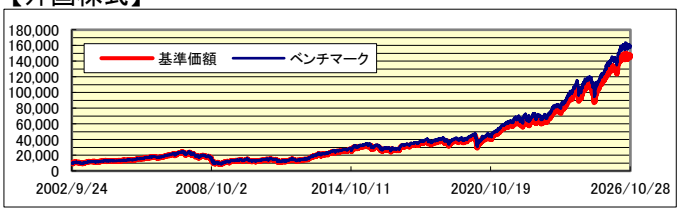
（単位：%）

＜騰落率＞	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	1.76	0.49	−0.64	−5.22	−9.22	11.78
ベンチマーク	1.76	0.48	−0.65	−5.23	−9.22	12.01
差	0.01	0.02	0.02	0.01	0.00	−0.24

＜市場の動き＞

国内債券市場では10年国債利回りが2.755%に低下（価格は上昇）しました。AI（人工知能）関連投資の収益性への懸念やフランスの財政悪化懸念を背景に、安全資産として日本国債が買われました。米国債利回りの低下や堅調な国債入札も相場を支える要因となりました。月末の日銀金融政策決定会合では事前予想どおり政策金利が据え置きとなり、市場の反応は限定的でした。

【外国株式】



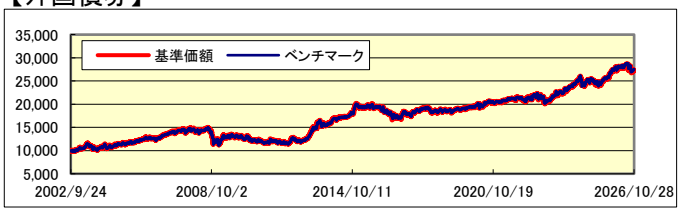
（単位：%）

＜騰落率＞	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	0.89	0.62	6.00	16.46	98.01	1,365.41
ベンチマーク	0.85	0.65	6.03	16.68	99.36	1,493.61
差	0.04	−0.03	−0.04	−0.23	−1.35	−128.20

＜市場の動き＞

米国株式市場は下落しました。月前半は、米雇用統計の予想比下振れなどで早期追加利上げ観測が後退し、上昇しました。月後半は、AI（人工知能）投資の持続性や収益性への懸念の高まりや大手ハイテク企業の決算への失望から、下落しました。
欧州株式市場は上昇しました。月前半は、フランスを起点とした欧州各国の長期金利上昇が重石となり、弱含みました。月後半は、好決算銘柄を物色する動きが強まり、上昇しました。

【外国債券】



（単位：%）

＜騰落率＞	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	1.41	−3.04	−3.02	1.68	21.91	173.40
ベンチマーク	1.34	−2.02	−2.81	1.80	22.57	175.02
差	0.07	−1.02	−0.21	−0.13	−0.66	−1.62

＜市場の動き＞

米国10年国債利回りは、4.929%に低下（価格は上昇）しました。AI（人工知能）関連投資の収益性への懸念やフランス財政不安を背景とした安全資産需要、FRB（米連邦準備理事会）の利上げ見送りなどを背景に米国債が買われました。
ドイツ10年国債利回りは、3.322%に低下しました。フランスの財政不安などを背景に投資家の安全資産への選好が強まりました。

＜各資産のベンチマーク（グラフはマイセレクション75VA1の当初設定日を10,000として指数化し、設定日から基準日までを表示。）＞
国内株式：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）　　外国株式：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）
国内債券：NOMURA-BPI 総合　　外国債券：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

世界バランスファンド PT

【特別勘定が投資する投資信託】
ピクテ・グローバル・バランス・オープンVA－C（適格機関投資家専用）

【運用会社】
ピクテ・ジャパン株式会社

主要投資対象

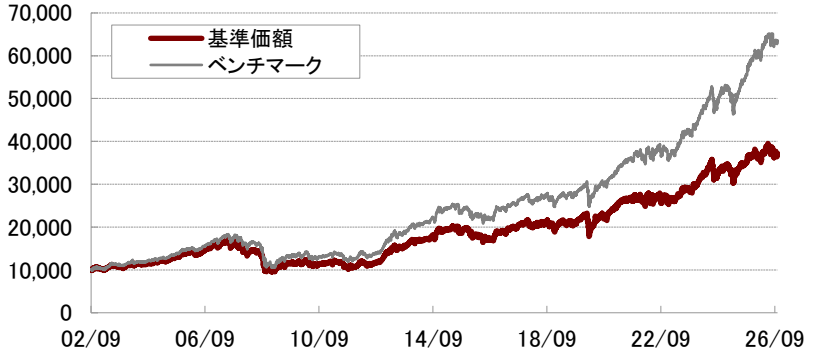
外国株式、外国債券、国内株式、国内債券。主にピクテ・グローバル・バランス・オープン・マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

主に日本を含む先進各国の株式および公社債に分散投資（基本資産配分：株式50%、債券50%）することによって中長期的信託財産の安定的な成長を目指します。
収益性と安定性をバランスよく追求します。

（2026年10月30日現在）

≪設定来の基準価額の推移≫



※基準価額は信託報酬等控除後。※ 当ファンドのベンチマークはMSCI世界株価指数（円ベース、配当再投資）50%＋FTSE世界国債指数（円ベース）50%です。グラフのベンチマークはファンドの設定日を10,000として指数化して表示しています。

≪ファンドの状況≫

基準価額	34,857 円
純資産総額	24 百万円

≪当ファンドの資産構成≫

マザーファンド	99.8%
その他	0.2%

※構成比は当ファンドにおける実質の比率を表示しております。小数点第2位を四捨五入していますので合計が一致しない場合があります。

≪基準価額の騰落率≫

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.46%	−1.34%	−0.93%	0.80%	31.41%	248.57%
ベンチマーク	1.04%	−1.08%	1.43%	8.83%	53.74%	534.46%
超過収益	−0.59%	−0.26%	−2.36%	−8.04%	−22.34%	−285.89%

※上記の騰落率は、税金控除前であり、実際の投資家利回りとは異なります。また、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

≪通貨別構成比≫

米ドル	62.1%
ユーロ	21.8%
円	2.8%
英ポンド	2.8%
台湾ドル	2.4%
その他	8.1%

≪信託財産構成比=マザーファンド≫

	2026/9/30	2026/10/30
＜株式＞	54.6%	53.6%
米国	34.3%	33.5%
オランダ	3.2%	3.1%
フランス	2.9%	2.8%
台湾	2.5%	2.4%
ドイツ	2.4%	2.3%
英国	2.2%	2.3%
韓国	2.4%	2.1%
カナダ	1.4%	1.4%
スイス	1.1%	1.3%
日本	0.6%	0.8%
その他	1.5%	1.5%
＜債券＞	42.6%	42.8%
米国	22.9%	23.3%
フランス	4.0%	3.9%
イタリア	3.1%	3.7%
英国	2.8%	2.7%
スペイン	2.2%	2.2%
その他	7.7%	7.0%
＜ｺｰﾙ･ﾛｰﾝ等、その他＞	2.8%	3.6%

※通貨別構成比および信託財産構成比は、マザーファンドが実質的に投資している資産内容で、構成比はマザーファンドにおける実質の比率を表示しております。小数点第2位を四捨五入していますので合計が一致しない場合があります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

世界バランスファンド PT

【特別勘定が投資する投資信託】
ピクテ・グローバル・バランス・オープンVA－C（適格機関投資家専用）

【運用会社】
ピクテ・ジャパン株式会社

主要投資対象

外国株式、外国債券、国内株式、国内債券。主にピクテ・グローバル・バランス・オープン・マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

主に日本を含む先進各国の株式および公社債に分散投資（基本資産配分：株式50%、債券50%）することによって中長期的信託財産の安定的な成長を目指します。
収益性と安定性をバランスよく追求します。

（2026年10月30日現在）

≪ポートフォリオ・マネージャー・コメント≫

【マーケット概況】
＜世界の株式市場＞
世界の株式市場は、堅調な企業業績や底堅い米国景気が買い材料となる一方、中東情勢を巡る不透明感や人工知能（AI）関連企業の資金調達をめぐる懸念などが売り材料となり、上下にもみ合う展開となりました。業種別では、エネルギーやヘルスケアなどが上昇した一方、コミュニケーション・サービスや情報技術などが下落しました。

＜世界の国債市場＞
世界の国債市場は、これまで株式市場をけん引してきたAI関連銘柄が不安定な値動きとなり、安全資産である米国国債に資金が流入したことなどから上昇（利回りは低下）しました。月末には米連邦準備制度理事会（FRB）が政策金利を据え置き、追加利上げについては今後のデータ次第との見方を示したことも、相場の安心材料となりました。

＜為替市場＞
ドル・円為替市場は、底堅い米国の経済指標がドル買い要因となった一方、日本銀行の追加利上げ観測や、不安定な株式市場を背景としたリスク回避の動きなどが円買い要因となり、月を通じては小幅に円安・ドル高となりました。ユーロ・円為替市場は、欧州中央銀行（ECB）による追加利上げ観測で円安・ユーロ高となる場面もありましたが、フランスの財政赤字に対する懸念などが嫌気され、月間では円高・ユーロ安が進行しました。

【運用状況】
当月の基準価額は上昇しました。債券が主なプラス要因となりました。今月については、株式の組入比率を削減し、キャッシュ比率を高めました。

【今後のポイント】
中東情勢の混迷が続く中、原油高を警戒して主要中央銀行が年内に再利上げに動くと見られるものの、過熱する資金需要やインフレ圧力は市場想定よりも小幅な利上げ幅でもなおそれらを抑制する効果が十分に期待できるとともに、持続的な経済成長が期待できると考えます。またAI関連企業の一部で資金調達面が懸念される一方で、同企業の業績は来期以降も高い伸びが見込まれており、中期的な強気見通しを変更する必要はないと判断します。このため短期的には市場の変動率が高まる可能性はあるものの、現状の投資判断を据え置き、株式に対して前向きな投資スタンスを継続する方針です。（※将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。）

※コメントの内容は作成日現在のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。

※当資料で使用したMSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
マネーファンド MB

【特別勘定が投資する投資信託】
三菱UFJ　MRF（マネー・リザーブ・ファンド）

【運用会社】
三菱UFJアセットマネジメント株式会社

主要投資対象

国内外の公社債、CP等の短期金融商品。

運　用　方　針

内外の公社債およびコマーシャル・ペーパーを中心に投資し、安定した収益の確保を目指します。投資対象とする有価証券は信用度が高く、残存期間が短いものとします。
外貨建資産への投資については、円貨で約定・決済するもの（為替リスクの生じないもの）に限ります。

2026年10月30日現在

■資産構成

	評価金額（円）	比率
公社債	17,068,447,564	2.8%
（うち固定債）	(17,068,447,564)	2.8%
（うち変動利付債）	(0)	0.0%
短期金融資産	603,982,016,488	97.9%
（うちコールローン）	(276,422,000,000)	44.8%
（うちCD）	(0)	0.0%
（うちCP）	(0)	0.0%
（うち現先・レポ）	(327,560,016,488)	53.1%
（うち割引手形）	(0)	0.0%
その他資産	-3,889,781,085	-0.6%
純資産総額	617,160,682,967	100.0%

・固定債：変動利付債以外の債券。

■基準価額および純資産総額

基準価額	10,000円
純資産総額	6,171.61億円

■ポートフォリオ特性

平均残存日数	4.5日

■国内（邦貨建）公社債（新株予約権付社債（転換社債）を除く）明細表

	額面金額（円）	評価金額（円）	残存期間別比率			
			1年未満	1年以上	2年以上	5年以上
国債	17,100,000,000	17,068,447,564	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%
地方債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
特殊債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
金融債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
普通社債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	17,100,000,000	17,068,447,564	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%

■債券の格付分布

格付種類	比率
AAA格	0.0%
AA格	0.0%
A格	2.8%
BBB格	0.0%
BB格以下	0.0%
無格付	0.0%

■短期金融商品(CP・CD)の格付分布

格付種類	比率
A－1格	0.0%
A－2格	0.0%
A－3格	0.0%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・比率は経過利子等を債券時価に含まず算出しております。・平均残存日数は組入銘柄の純資産総額に対する比率で加重平均しています。・変動利付債の残存日数は、次回利払日までとして計算しています。・特殊債とは独立行政法人、公庫等の政府関係機関等、いわゆる特殊法人や特殊団体が特別の法律に基づいて発行する債券の総称です。・格付は、R&I、JCR、S&P、Moody'sのうち最も低い格付を表示しています。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。